

定期保守

▲ 警告

スプリッタの清掃、調整、修理は、必ずエンジンを停止し、スパークプラグを外し、システムの圧力を抜いてから行ってください。コントロールレバーを数回前後に動かして、システムの圧力を軽減します。

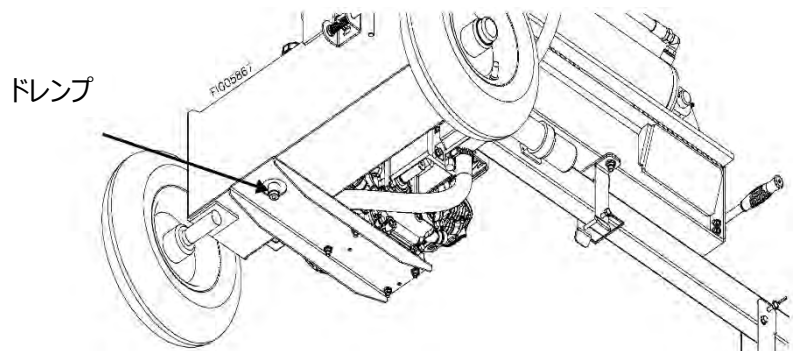
重要:

部品を交換する必要がある場合は、メーカーの仕様を満たす純正部品のみを使用してください。機能する交換部品仕様を満足しないと、安全上の問題が発生したり、ログスプリッタの作動不良の原因となります。

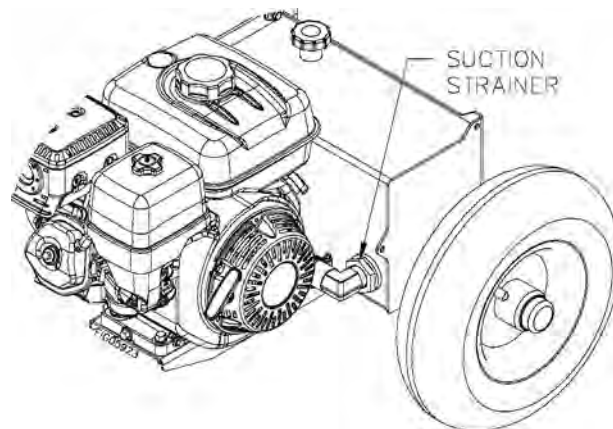
1	エンジンメンテナンス	エンジン取説に規定されているエンジンメンテナンスを実施する。
2	油圧オイル交換	<p>毎年または 100 時間ごとに作動油を交換してください。</p> <p>警告:</p> <p>油圧式ログスプリッタでは、高い流体圧力と温度が発生します。ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動油が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、次の事項に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none">絶対に手で油漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材の端を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)にかざすことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。絶対にポンプやバルブの圧力を調整しないでください。オイルが漏れてけがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな傷でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症などが生じることがあります。 <p>油圧オイル交換</p> <ol style="list-style-type: none">ウェッジを完全に収納させます。点火プラグのワイヤを外し、燃料コックを OFF にしてください。油圧作動油 32" オイルをご使用ください。エンジンをオフにした状態で、コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力を軽減します。作動油給油キャップを外します。 <p>▲ 警告</p> <p>エンジンが運転中または高温のときは、給油キャップを絶対に外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがある。ログスプリッタを完全に冷</p>

却してから給油キャップを取り外してください。

6. 油圧タンクからドレンプラグを取り外し、作動油を排出します。



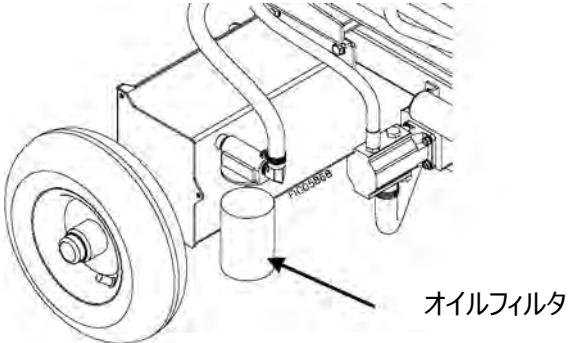
7. ドレンプラグを取り付け直します。
8. サクションストレーナを外し、乾いた布でゴミを拭き取ってください。
9. ネジ部にシールテープを巻き、サクションストレーナを取り付け直します。



10. 廃油は適切な処理場で処理してください。使用済み作動油は有害廃棄物です。
11. 油圧タンクに規定量給油し、給油キャップを閉めてください。
12. 作動油がポンプを通して循環するように、スターターグリップを少なくとも 20 回引きます。
13. 点火プラグにプラグキャップを接続し、燃料コックを ON にしてください。
14. エンジンを始動してください。ウェッジを 5 回伸縮させて、システムからエア抜きます。
15. エンジンを停止して、ウェッジを収納した状態で作動油の液面を確認する。オイルレベルがフルになっていることを確認します。必要に応じて補充します。

注意：

油量を確認するときは、ディップスティックをねじ込まないでください。

3	オイルフィルタ交換	<p>最初の 50 時間の運転後、またそれ以降は 250 時間ごとにオイルフィルタカートリッジを交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ログスプリッタのエンジンを停止します。 2. コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力をにがします。 3. オイルフィルタを外し、適正に廃棄してください。 <p>注意：レンチが必要な場合があります。</p>  <ol style="list-style-type: none"> 4. 新しいフィルタのガスケットシールに少量の潤滑剤を塗布します。 5. 新しいフィルタを取り付け、ガスケットがヘッドに当たったら 3/4 回転で手締めします。
4	スパークアレスターマフラー	<p>エンジンのマフラースパークアレスターは、定期的(エンジンメーカーの取扱説明書に従う)に掃除し点検してください。破損している場合は交換してください。</p>

トラブルシューティング

▲ 警告

トラブルシューティングや保守作業を行う前に、下記の安全上のご注意をよくお読みください。可動部が破損したり、破損したり、やけどをしたり、火災や爆発を起こしたり、高圧作動油が漏れたりするなど、作業員や見物人に重傷を負わせないようにしてください。

重要な安全上の注意:

1. ログスプリッタの掃除、修理、調整を行う前には、必ずエンジンがオフになっていることを確認してください。ただし、動作テストする場合を除きます。
2. 油圧式ログスプリッタには高い流体圧と温度が発生します。
ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動油が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、常に次の事項に留意すること。
 - ホース、チューブ、継手、その他のコンポーネントなどの油圧コンポーネントを変更または調整する前に、エンジンを停止し、スパークプラグを取り外し、コントロールバルブのハンドルを前後に動かして圧力を緩和します。
 - エンジン運転中は給油キャップを外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがあります。ログスプリッタを完全に冷却してから給油キャップを取り外してください。
 - ポンプやバルブの圧力設定を変更しないでください。
 - 手で油漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材の端を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)にかざすことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。
 - けがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな傷でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症などが生じることがあります。

問題	
ウェッジが移動しない	解決策:A、D、E、H、J
伸縮時のウェッジ速度が遅い	解決策:A、B、C、H、I、K
木が割れない、または非常にゆっくりと割れない	解決策:A、B、C、F、I、K
分割中にエンジンが停止する	解決策:G
低負荷時のエンスト	解決策:D、E
原因	解決策
A- 給油量不足	オイルタンク内のオイルレベルの確認
B- オイル中のエア混入	タンク油面確認、サクションライン漏れ確認
C- ポンプ入口真空度が高い	ポンプ入口ホースに詰まりやよじれがないか確認してください。
D- 油圧ラインのつまり	スプリッタ油圧システムを点検洗浄する
E- コントロールバルブのつまり	スプリッタ油圧システムを点検修理する

F-	コントロールバルブ圧力設定不良	圧力計でリリーフバルブを調節する
G-	コントロールバルブ圧力設定不良	圧力計でリリーフバルブを調節する
H-	コントロールバルブ破損	コントロールバルブ交換
I-	コントロールバルブ内オイルリーク	コントロールバルブオイルシール交換
J-	シリンダピストンの破損	シリンダ交換
K-	シリンダピストンシール不良	シリンダオイルシール交換

ログスプリッタの修理、部品のお問い合わせは、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。